



2016年9月8日
日本製紙株式会社

“紙”なのに酸素・香りを通さない 紙製バリア包材「シールドプラス®」の用途開発を強化

～10月、TOKYO PACK 2016 出展／循環型素材で新たな包材を提案～

日本製紙株式会社(社長:馬城 文雄)は、パッケージ分野を成長が見込める事業領域として捉え、循環型素材である木質バイオマス为原料とする紙をベースに、包装用素材やパッケージの開発を進めています。そのひとつとして、紙にバリア性を付与した包材「シールドプラス®」を開発しており、このたび、本年4月に発足したパッケージング・コミュニケーションセンターとパッケージング研究所が連携し、本格的な用途開発を進めていくことになりました。

近年、食品の安全性や環境配慮といった視点からパッケージに対して様々な機能が求められています。「シールドプラス®」は、当社が製紙会社として長年培ってきた紙の製造技術と塗工技術を応用し、再生可能な循環型素材である「紙」に酸素や香りのバリア性を付与した、環境に優しい新たな包装材料です。「紙製」なので、フィルムとは異なる紙独特の風合いがあるのも特徴です。「シールドプラス®」の高いバリア機能により、内容物(主に食品)の品質を維持し、また外からのにおい移りを抑えることができます。

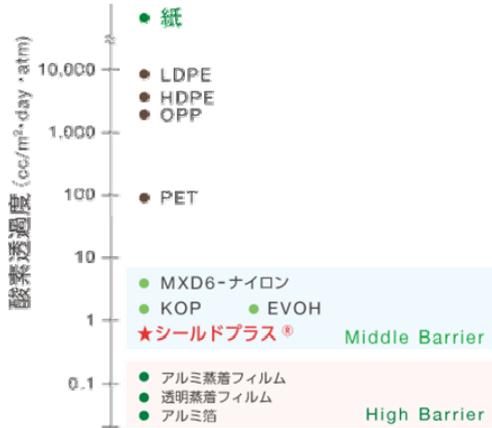
「シールドプラス®」は、10月4日(火)～7日(金)まで東京ビッグサイトで開催される「2016 東京国際包装展(TOKYO PACK 2016)」に出展し、その魅力、可能性を実感していただく予定です。さらにバリア性能(主に水蒸気バリア性)を高めた「シールドプラス®プレミア」も同展で、参考出展する予定です。

当社は、昨年企業グループ理念を明文化し、「木とともに未来を拓く総合バイオマス企業」とのスローガンを掲げています。紙を基材とするパッケージを通じて、豊かな暮らしと文化の発展に貢献し、社会が抱える課題の解決につながる価値の提供を目指してまいります。

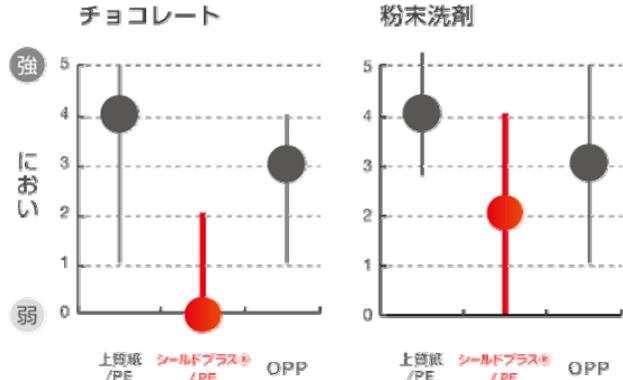


シールドプラス®の特徴

■ 酸素バリア性



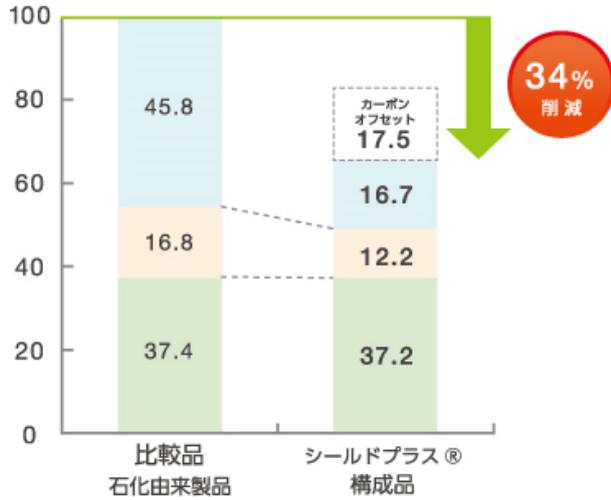
■ 保香性・フレーバーバリア性



* 評価法

各フィルムで三包シール袋を作製後、試験体を充填して密封し、内容物の臭気の漏れ具合を0~5の6段階にて官能評価（当社法）
 (○：中央値、—：評価結果上下限)

■ 包材 1m²あたりのCO₂排出量 (比較品を100とした場合の相対比較)



補足1：LCA (ライフサイクルアセスメント)

製品のライフサイクル環境影響を図る手法

ここでは、原料製造・ラミネート加工・廃棄(焼却)の工程を評価

補足2：評価方法

LCA ソフトウェア MiLCA (社) 産業環境管理協会

[比較品] MiLCA 実装データ、LCA 日本フォーラムDBを利用

[シールドプラス® 構成] 自社操業データを使用

補足3：評価包材の構成

[比較品] OPP_{20μ} / EVOH_{12μ} / LLDPE_{25μ} (かつお節包材)

[シールドプラス® 構成] シールドプラス®_{60g/m²} / PE_{30μ}

本件に関するお問い合わせ

日本製紙株式会社

産業用紙部

主席技術調査役 畠田 真紀

(TEL 03-6665-5171)

パッケージング・コミュニケーションセンター

技術調査役 内村 元一

(TEL 03-6665-1070)

以上